

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

1 日時 平成20年10月〇日(〇)

2 学年・組 第2学年〇組

3 単元名 根拠を明らかにして書こう 意見を伝える
5 事実と意見 「モアイは語る ー地球の未来」
「根拠を明らかにして書こう 意見を伝える」

4 指導事項

(1) 書くこと エ

- ・自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと

(2) 言語事項 エ

- ・相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることに気付くこと

(3) 言語活動

多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。

- ・序論で明らかにした自分の意見が揺れないように気を付けて、読み手に効果的に伝わるような根拠を挙げて書くこと。
- ・対立する意見の人も納得できる根拠を挙げて書くこと。(小グループでの話し合い)
- ・具体的な事例がわかりやすく書けているか、表現を確かめて書くこと。
- ・500字～600字程度の意見文を書くこと。

5 単元の評価基準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○ 他人の論理の展開や材料の活用などについて、積極的に自分の表現の参考にしようとしている。	○ 本論に、自分の意見を支える根拠として具体的な事例やデータをわかりやすく挙げて書いている。 ○ 三段落構成を基本にして書いている。	○ 相手や目的に応じて、根拠とする材料を変えようとしている。

6 単元について

○ 生徒の状況

- ・活発な男子と落ち着いた女子というクラスの雰囲気である。また、何事に対しても興味関心が喚起されれば一生懸命に取り組むが、そうでないと停滞してしまう傾向がある。
- ・基礎・基本状況調査の結果によると、全体的には高い通過率を示しているが、内実は、学力の差が大きく、基礎学力が十分に定着していない生徒が数名いる。
- ・「書くこと」については、夏休みの課題として課した意見文を分析した結果、次のことが明らかになった。
 - ア 600字～800字を課題としたが、9割の生徒が書いている。
 - イ 序論・本論・結論の三段落構成を意識した意見文になっているが、序論と結論の結びつきが弱い。
 - ウ 根拠となる体験・事実を書いているが、内容が盛りだくさんであり、取捨選択をしていないため、説得力に欠ける。

○ 教材の価値

- ・ 「意見文を書くこと」：第2学年のこの時期は、様々な事柄について批判的な考え方を
する反面、他者と対立することを避けて安易に同調してしまう傾向がみられる。同様に、
学習面においても自分の意見を主張することに自信が持てていない生徒が多い。このこと
から、筋道立てて文章を書くことによって、自分の意見が主張できることに気付かせたい
と考え、「立場を決めて意見文を書く」という言語活動を位置付けた本単元を設定した。
- ・ 「根拠を明らかにすること」：これまでの意見文は、資料を羅列したり、「楽しいから」
「良いと思ったから」などの抽象的な内容を根拠としたものが目立つ。意見文とは、自分
の意見をはっきりと読み手に伝えるものであり、読み手を納得させる必要がある。そのた
めには、相手の立場や意見を理解した上で、根拠を明確にし、伝えたい事柄を相手や目的
に応じて取捨選択して構成する必要があることを認識させたい。
- ・ 「モアイは語る」：本学年の生徒は、小学校第6学年で「イースター島にはなぜ森林が
ないのか」（東京書籍）を学習しており、森林破壊等によるイースター島の破滅について
予備知識を持っている。また、夏休みの課題としたスピーチコンテストの原稿作りの題材
として、環境問題を取り上げている生徒が多い。そのため、本単元を「モアイは語る」の
発展学習と位置付け、環境問題に対して、自分の意見と根拠を明らかにして説得力のある
意見文を書く学習として取り組ませたい。

○ 指導の工夫

- ・ 「このままでは人類は滅びるのか」という課題に対して、肯定・否定の立場をはっきり
させて意見文を書くことをあらかじめ示し、その根拠（自分の意見を支える事柄）を読み
取ることと、構成の工夫を学ぶことをねらいとすることで、教科書教材を読むことに必要
感をもたせる。
- ・ 自分の立場からだけ考えたのでは、問題は簡単に解決しないことに気付かせるために、
「大統領からの手紙」という文章を読ませる。自分の考えを持たせた後、さらに「大統領
からの手紙2」を読ませ、自分の意見の変化等について小グループ内で意見交流をさせ、
自分の意見を深めさせる。

7 単元の学習と評価の計画

次	時	学習活動 (評価方法)	観点		
			関 心 意 欲 態 度	書 く 能 力	言 語 事 項
一	1	・「このままでは人類は滅びてしまうのか」という課題に対して、自分 の立場（滅びてしまう・滅びない）を決め、その根拠となる事柄を小 グループで出し合い、ワークシートにまとめる。 (授業観察・ワークシート)	○		
	2	・教科書教材「モアイは語る」を読み、筆者の構成の工夫を知る。			
	3	・文章中から、『滅びてしまう』・『滅びない』のそれぞれの立場の根拠		○	
	4	となりそうな事柄を読み取り、メモをとる。(授業観察・ノート)			
二	5	・「大統領からの手紙」を読み、自分の意見を持つ。 ・その後、「大統領からの手紙2」を読んで自分の意見を深める。 ・自分の意見の変化について小グループ内で意見交換をおこない、その 理由（根拠）を明らかにする。(本時) (授業観察・ワークシート)		○	
	6	・自分の意見を効果的に伝えるために必要な根拠となる資料等を考え、 小グループ内で取材の方法や分担等を検討する。 (授業観察・ワークシート)			○

三	7	・集まった資料や題材を吟味し、全体の構成を工夫する。 (ワークシート)		○	○
	8	・序論と結論のつながりを意識し、三段落構成で、500字～600字の意見文を書く。 (意見文)		○	

※準備物 ワークシート 小黒板 原稿用紙 授業評価表

8 本時の目標

- 自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにしようとしている。

9 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 一次（1～4時）の学習活動を振り返る。 ・ 目標：「このままでは人類は滅びてしまうのか」に対する意見文を書く。 ・ 自分は、「滅びる」・「滅びない」のどちらの立場なのかを明らかにした。 ・ 根拠を、小グループで教科書から集めた。	○ 一次で使ったワークシートを留意する。	
2 本時のめあてを示す。		
自分の意見をはっきりさせ、その根拠を明らかにしよう。		
3 自分とは違う立場や意見をもつ相手を設定し、それに対する自分の意見とその根拠を考え、小グループで意見交流する。	○ 違う立場にある相手の意見が書かれたワークシート（「大統領からの手紙」）を配る。	
4 話し合った内容を小黒板に記入させて掲示する。	○ 小黒板の準備と配布。	
5 相手のより詳しい現状が書かれたワークシートを読んで、自分の意見を見直す。	○ 相手の現状が書かれたプリント（「大統領からの手紙2」）を配る。 ○ 自分の意見が変わった理由を記録させる。	A： 自分の意見を深め、その根拠を明確に書いている。
6 深まった自分の意見を小グループ内で意見交換し、発表する。	C： 小グループ内での意見交換や他グループの発表を参考にして自分の意見を持てるように支援する。	B： 自分の意見を深めることができ、その理由を書いている。 (ワークシート)
7 本時のめあてを振り返る。	○ 授業評価表に記入する。	